

国語科 中学校 3年

単元名 古典を楽しむ
「夏草—おくのほそ道から—」

本時の流れ（第5時）

本時の目標

○俳句に込められた思いや情景を読み取り
感性を高める。

・音読レッスンをする。（「おくのほそ道」や他の古典教材を使用する。）

教師の範読に従って大きな声で音読させる。

・前時までの学習を振り返る。
・本時の学習の目標を確認する。

【導入】

・「菊の香や古都には古き仏たち」の俳句を基に、思い浮かべた「菊」から「仏たち」を想像する。

野菊の写真→石地藏達の写真
大菊→大仏の写真
鑑賞する人によって、イメージの広がり方が違うことを押さえる。

ワークシートはこちら

CLICK

・「おくのほそ道」の旅程図から、これまで取り上げた俳句と、これから取り上げる俳句が作られた時期や場所を確認する。

現在とは約1ヶ月半のずれがある点を押さえながら、その季節感と情景をイメージさせる。

・「野を横に馬牽むけよほととぎす」の、「ほととぎす」の鳴き声を三種の鳥の鳴き声から選ぶ。

聞き比べることで、俳句の情景にふさわしい鳴き声を選び、俳句の世界を感性をとぎすませて鑑賞させる。

ワークシートはこちら

CLICK

・「閑かさや岩にしみいる蝉の声」の、「蝉」の鳴き声を三種の蝉の鳴き声から選ぶ。
（時間があれば、「荒海や…」の俳句についても、ワークシートを活用して同様に行う。）

聞き比べることで、俳句の情景にふさわしい鳴き声を選び、俳句の世界を感性をとぎすませて鑑賞させる。

・芭蕉の俳句から、一つを選んで鑑賞文を書く。
（条件）
・250字以上300字以下
・俳句の言葉に着目して書く。

【鑑賞文について】

- ①自分もったイメージについて根拠を明らかにしながら書く。（どうしてそう感じるか）
- ②俳句の言葉に着目する。
- ③読む人に分かるように鑑賞文を書く。
- ③他の人の鑑賞文を参考にして、再考する。
- ④字数など決まった条件に従って書く。